



# 園長だより

1月号

H28.12.16  
新渡戸文化子ども園

「おかげさまで」と「おたがいさまで」

短大で講義をした時に、紙をお配りした際短大生が「ありがとうございます」と元気に言っていたときに感激しました。大人になった21歳の学生さんが、恥ずかしがらずにそんな風にはっきりとお礼が言えるものだとあまり予想していなかったのも、いい意味で裏切られました。短大の先生方のご指導の賜物だと身内のことながら感心しました。

自分を取り囲むすべてのもの（社会、自然界なども含む）の「おかげ」で順調である、というふうにする心があれば、自然に「ありがとう」と出てくるのだろうし、自然の中に生かしていただいていると謙虚に思う心があれば、「おかげさまで」と自然に出てくるのかな？とも考えさせられました。

「おかげさまで」

大人として、子どもの規範となるべく自然に言えるように心がけたいものです。

豪から東京へ帰国してすぐは、その人の多さといろいろな場所の狭さに慣れるまでに時間がかかりました。今も時々、「え？」ととまどう事もあります、そんな時ある場面を思い出します。

白髪の女性が、バスの中で自分より体が大変そうな白髪の女性に席を譲っていました。「ありがとうございます。」とお礼に対して「おたがいさまですから。」と一礼をして真っ直ぐに凛と前を向き吊革につかまりました。

自分が同じような白髪になった時、そんな風になれるだろうか？そんな風でありたいと思います。

「おたがいさまですから」

とても美しい日本語ですね。

忙しかったり、込み合っていたり、イライラしたり、うまくいかなかったり、思い通りにいかなかったり、ストレスが多い、特に人口が多く、場所の狭いこの大都市に住むことは、なにかとそんな場面があるかと思います。そんな時ぐっと飲み込んで「おたがいさまですから」と言える、素敵な大人でいたいですね。

幼児期の子どもたちはどうでしょう？いらっとして「なんだよ！」と怒鳴るご両親様を見て育つのと、「おたがいさまですから」と潤滑油としての社交的な言い回しを笑顔でできるご両親様を見て育つのと・・・

ご親戚や、遠方のおじいちゃまおばあちゃま等ともお会いする機会が増える年末年始ですね。

子どもたちは「あけましておめでとうございます」と、ご挨拶ができると良いですね。そして、お子様の前で、「おかげさまで」「おたがいさまですから」と、潤滑油としての社交的な言葉で規範になり、皆様が温かく良い新年を迎えられることを願っております。

本年も、ご協力ありがとうございました。

「心より深謝いたします。」

